

構造特記仕様書 2018年度版

§1 一般事項

- 1-1 使用材料は原則としてJIS規格品、又は大臣認定品とする。
1-2 設計図書の優先順位は下記による。
1)本特記仕様書
2)設計図
3)標準図
4)仕様書
5)日本建築学会標準仕様書、JASS5、JASS6
1-3 各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承認を得る。
1-4 構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。
1-5 設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承認を得る。
1-6 梁貫通位置、径、及び箇所数は(○)窓匠図 ・ 構造図 (◎設備図)による。
1-7 その他

§2 構造計算ルート

Table with 2 columns: 方向 (X, Y) and 構造計算ルート (ルート1, ルート2, ルート3)

§3 仮設工事, 土工事

- 3-1 山留め、根切り
3-2 埋戻し土、盛土、残土処分
3-3 盛土
3-4 残土処分

§4 地業工事

Table with 3 columns: 場所, 捨てコンクリート厚さ, 厚さ

- 4-1 基礎及びスラブ下地業
4-2 設計地耐力
4-3 地盤改良
4-4 既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭

- 1)杭種
2)工法
3)杭径, 設計耐力, 本数表
4)杭の構成は設計図による。
5)杭頭補強
6)場所打鉄筋コンクリート杭, 場所打鋼管コンクリート杭

Table with 6 columns: 杭径(底部部)mm, 長期kN, 短期kN, 終局kN, 本数, 備考

- 3)杭径, 設計耐力, 本数表
4)杭の構成は設計図による。
5)杭頭補強
6)場所打鉄筋コンクリート杭, 場所打鋼管コンクリート杭

Table with 6 columns: 杭径(底部部)mm, 管厚 mm, 長期kN, 短期kN, 終局kN, 本数, 備考

- 3)杭先端深さ
4)孔壁測定
5)使用材料
6)杭打地業共通事項

§5 鉄筋工事

Table with 3 columns: 種類, 径, 継手

- 5-2 ガス圧接部の検査(第三者機関による)
5-3 溶接, 機械式継手の検査は各々の認定方法による他日本継手協会仕様書(2017年)による。
5-4 梁貫通補強
5-5 その他

§6 コンクリート工事

- 6-1 設計基準強度 (N/mm<sup>2</sup>)
1)セメント
2)組骨材
3)躯体(使用区分は設計図の軸組図に示す)

- 4)土間コンクリート
5)捨てコンクリート
6)防水押さえコンクリート
7)かき上げコンクリート

Table with 5 columns: 箇所, 基礎, 地中梁, 一般, 備考

- 6-4 試験 (躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)
6-5 調査 (補正値は工事費を含む)
6-6 せき板及び支柱の在置期間(普通ポルトランドセメントの場合)

Table with 4 columns: コンクリートの材料, 基礎, 梁, 柱, 壁, スラブ下, 梁下

- 6-7 住宅性能表示
6-8 Fc36を超える高強度コンクリートは別記特記仕様書(JASS5等)による。

§7 鉄骨工事

Table with 6 columns: 規格名称, 鋼材名, 柱, 通シ, 内, 大梁, アレス, 小梁

Table with 2 columns: 高カポルトの種類, 使用箇所

- 7-3 普通ポルト, アンカーポルト
7-4 高カポルト

Table with 2 columns: 径, 長さ(mm), 使用箇所

- 7-5 溶接材料
7-6 スクラップ形状
7-7 継手

Table with 3 columns: フランジ, ウェブ, 柱, 梁

- 7-8 溶接手法及び管理
7-9 テッキプレート (単位 mm)
7-10 塗装(工場塗 \* 2回)

Table with 4 columns: 適用, 塗料, 種別, 標準膜厚

- 3) 溶融亜鉛メッキ
4) 常温亜鉛メッキ
7-11 溶接部の検査(受入検査)

- 1)受入検査を行う第三者検査機関は、建築主、設計者、工事監理者又は工事施工者(元請)との直接契約による。
2)第三者検査機関は(社)日本溶接協会によるCIW検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を
3)受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。
4)外観検査の合格判定は国土交通省告示1464号による。
5)超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規程・同解説」2008により、合格判定は7.2.1疲労を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。
6)溶接箇所数の数え方は「JASS6 鉄骨工事 2018」表10.1溶接箇所数の数え方による。
7)受入検査の抜取り方法及び抜取り率は以下による。

Table with 6 columns: S, H, M, R, J

§8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事

- 8-1 コンクリートブロック
8-2 ALC パネル

Table with 4 columns: 方向, 構法, 使用箇所, 備考

- 8-3 押出成形セメント板
8-4 PCa板

Table with 4 columns: PCa板厚さ mm, 現場打厚さ mm, 合計厚さ mm, 備考

- 2)外壁 厚さ mm

Table with 4 columns: TITLE, DATE, SCALE, CHECK, PLAN, DRW, NO.

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1) 2018年度版

§1 一般事項

1-1 基本事項

1. 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2. 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。  
また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書1-2-4に指定した共通仕様書及び日本建築学会「JASS5(2015)」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」による。
3. 本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。
4. 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

1-2 その他

§2 共通事項

鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。

記号	●	×	/	●	×	●	⊕	⊕	×		
呼び径 d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最外径 D	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46

フックのない場合  
フックのある場合  
本数が異なる場合  
機械式継手表示  
ガス圧接、溶接継手表示

2-2 鉄筋の折り曲げ

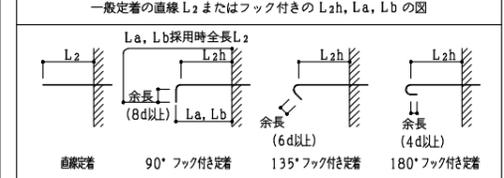
柱・梁・基礎の主筋、及び、その他の鉄筋の折曲げ形状・寸法

折曲げ角度	図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径(D)
180°		柱・梁主筋 基礎主筋 帯筋 あばら筋 スパイラル筋 スラブ筋 壁筋	SD295 SD345	D16以下 D19~D41	3d以上 4d以上
135°			SD390	D41以下	5d以上
90°			SD490	D25以下 D29~D41	5d以上 6d以上

2-3 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

「JASS5(2015)」に準拠

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度(N/mm <sup>2</sup> )	重ね継手の長さ			
		上段直線 L <sub>1</sub> 下段フック付き L <sub>1h</sub>	上段直線 L <sub>2</sub> 下段フック付き L <sub>2h</sub> , L <sub>2a</sub>	一般	小梁・床スラブ
SD295 SD345 (はSD345を示す)	18	45d(50d) 35d	40d 30d	40d 20d	15d(20d)
	21	40d(45d) 30d	35d 25d	35d 15(20)d	
	24~27	35d(40d) 25d(30d)	30d(35d) 20d(25d), 15(20)d		L <sub>1</sub> =20d L <sub>2h</sub> =10d
	30~36	35d 25d	30d 20d	30d 15d	床スラブの場合 L <sub>1</sub> =10d かつ
	39~45	30d(35d) 20d(25d)	25d(30d) 15d(20d), 15d		150以上
	48~60	30d 20d	25d 15d	25d 15d	
SD390 (SD490) (-)は適用外	21	50d(-) 35d(-)	40d(-) 30d(-), 20d(-)		20d(-)
	24~27	45d(55d) 35d(45d)	40d(45d) 30d(35d), 20(25)d		
	30~36	40d(50d) 30d(35d)	35d(40d) 25d(30d), 20(25)d		
	39~45	40d(45d) 30d(35d)	35d(40d) 25d(30d), 15(20)d		15d(-)



1. 重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起点間の距離、又、フック付きの L<sub>2h</sub> は仕口面から鉄筋の折曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。  
2. 軽量コンクリートを使用する場合は、2-3の数値に5dを加算する。

2-4 継手一般

3. 構造特記仕様書2-2で政令第73条とした場合、主筋又は耐力壁の鉄筋の重ね重ね長さは左下表 L<sub>1</sub> かつ 40d (軽量コンクリートを使用する場合は50d) とする。

4. 構造特記仕様書2-2で JASS5(2015)、RC規準2010とした場合、主筋又は、耐力壁の鉄筋の重ね重ね長さは設計者の指示による。参考値として左下表 JASS5(2015) に L<sub>1</sub>, L<sub>2</sub> を示す。

1. ガス圧接、溶接継手

2. 機械式継手

3. 重ね継手 (壁、スラブ筋を除く。)

4. D35以上の鉄筋は原則として重ね継手は用いない。(ガス圧接、溶接、機械式継手等による)

5. 鉄筋継手を行う場合は原則として同一鋼種とし、鉄筋径の差はガス圧接の場合は2サイズ、溶接の場合は1サイズまでとする。

6. 溶接継手及び機械式継手の場合はメーカー仕様による。

下記の1.~7. に示す鉄筋の末端部にはフックをつける。

1. あばら筋及び帯筋 2. 煙突の鉄筋

3. 柱及び梁(基礎梁を除く)の出隅部分の鉄筋(下図参照)

4. 片持ちスラブの上端筋の先端

5. 最上階及びこれに準ずる箇所の柱頭の四隅の鉄筋

6. 杭基礎の基礎筋(偏心基礎及び杭2本打以上の場合)

7. 鉄骨柱の脚部の基礎柱、又は根巻コンクリートの四隅の鉄筋

鉄筋のあき a は原則として下記による。

呼び名の数値 d の 1.5 倍以上 } かつ 25 以上 \*D は最外径を示す

粗骨材の最大寸法の 1.25 倍以上

鉄筋径が異なる場合は大きい方による。

二段筋のあきは 1.5d とする。

二段筋に対するコンクリートの設計かぶり厚さと最小かぶり厚さ

2-5 鉄筋のフック

2-6 鉄筋のあき

2-7 かぶり厚さ

部 位	かぶり厚さ		
	仕上げあり	仕上げなし	
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	30(20) 30(20)	30(20) 40(30)
	柱 梁 耐力壁	40(30) 40(30)	40(30) 50(40)
	擁 壁	50(40) 50(40)	
	柱・梁・床スラブ・壁 布基礎の立上り	50 <sup>※2</sup> (40)	
土に接する部分	基礎・擁壁	70 <sup>※2</sup> (60)	

3-1 主筋の継手

ガス圧接、溶接、機械式継手

重ね継手

3-2 主筋の定着

3-3 帯筋副帯筋

3-4 補助筋

3-1 主筋の継手

3-2 主筋の定着

3-3 帯筋副帯筋

3-4 補助筋

§3 柱

ガス圧接、溶接、機械式継手

重ね継手

3-1 主筋の継手

3-2 主筋の定着

3-3 帯筋副帯筋

3-4 補助筋

3-2 主筋の定着

3-3 帯筋副帯筋

3-4 補助筋

3-3 帯筋副帯筋

3-4 補助筋

3-3 帯筋副帯筋

3-4 補助筋

3-3 帯筋副帯筋

3-4 補助筋

3-5 柱のコンファインド補強

補強する柱は設計図による。(柱頭、柱脚柱成の範囲を補強する。)

a スパイラル帯筋 φ60~75 (有効間隔50程度)  
b 溶接閉鎖型帯筋 φ60~75 (有効間隔50程度)

§4 梁

4-1 主筋の継手

4-2 主筋の定着及び余長

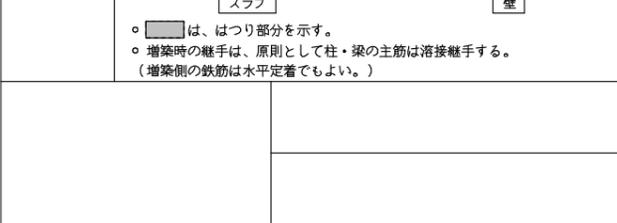
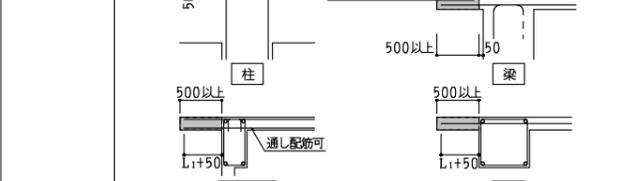
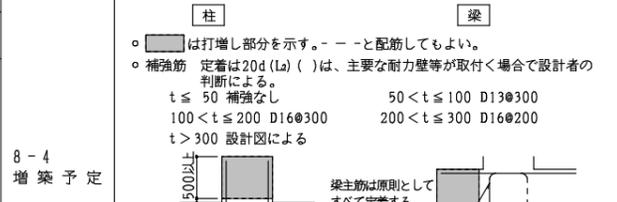
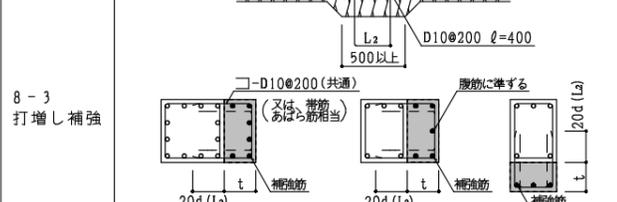
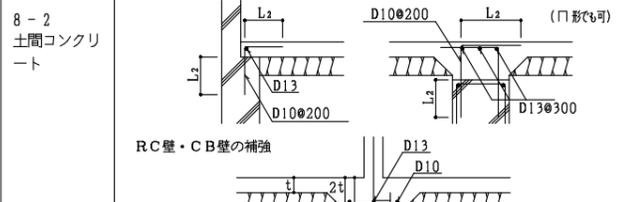
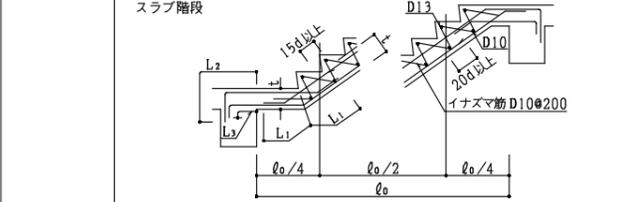
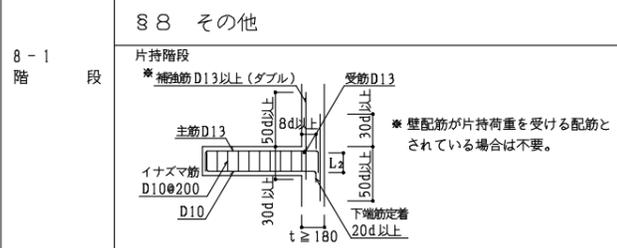
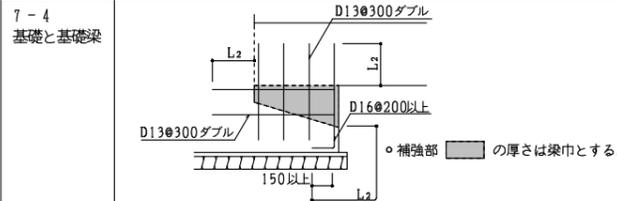
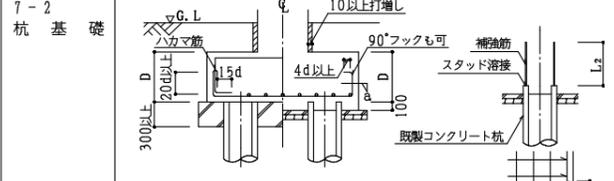
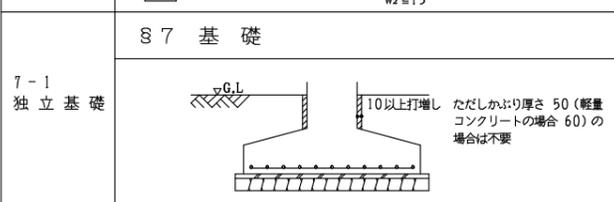
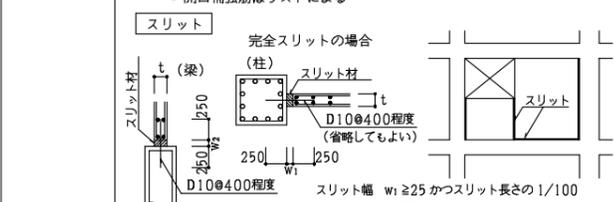
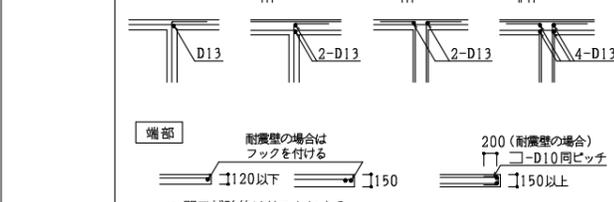
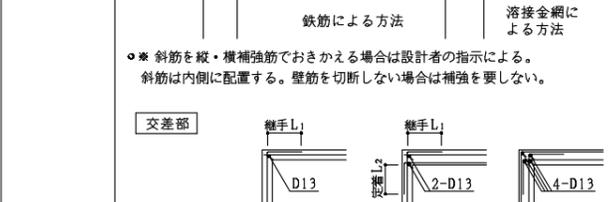
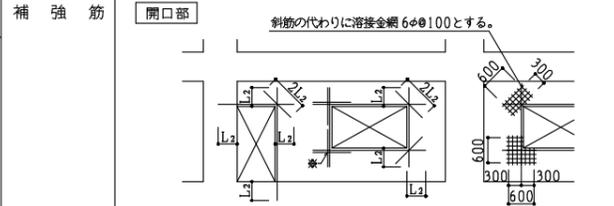
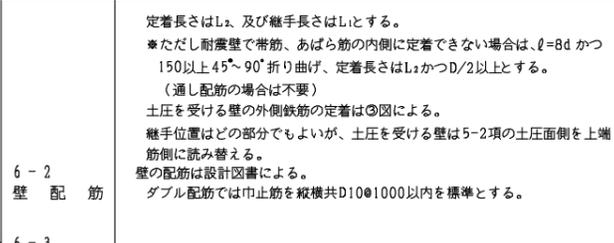
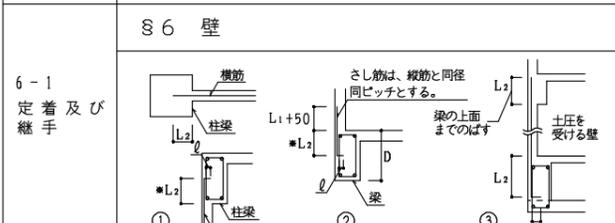
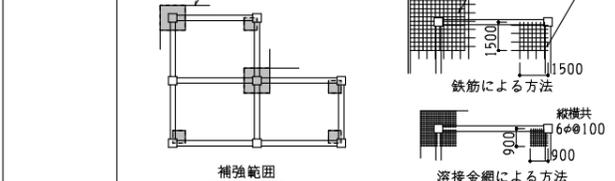
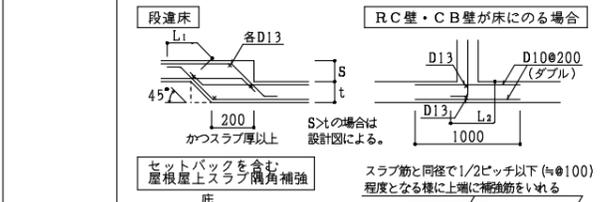
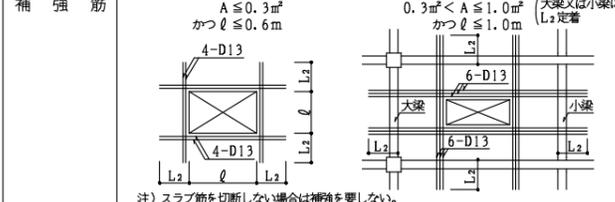
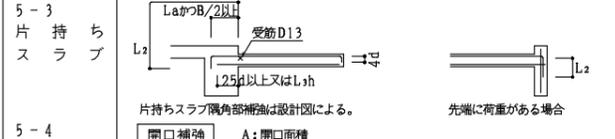
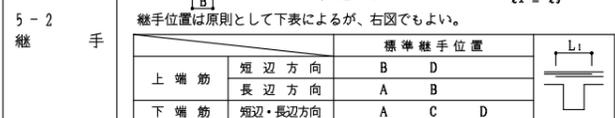
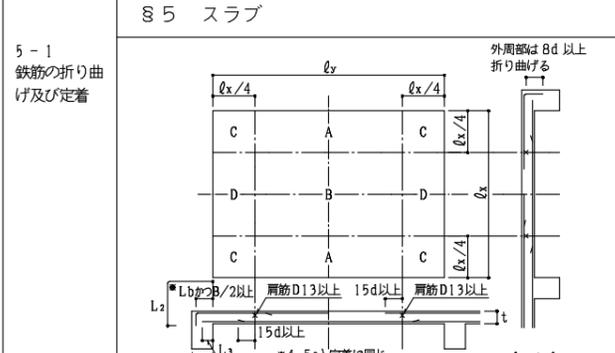
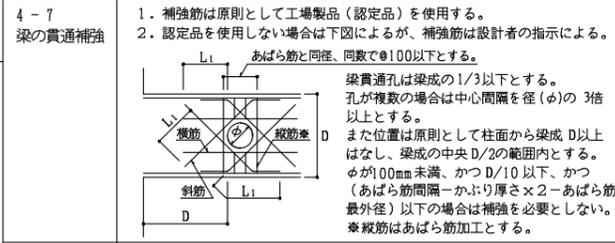
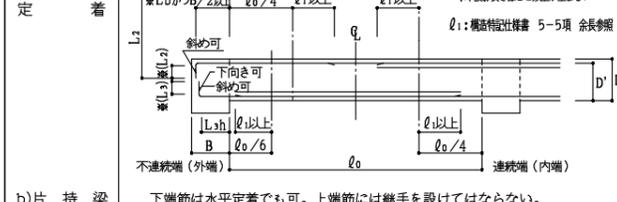
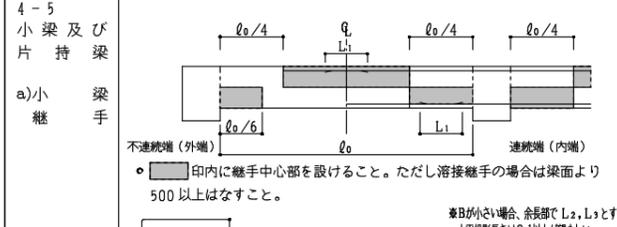
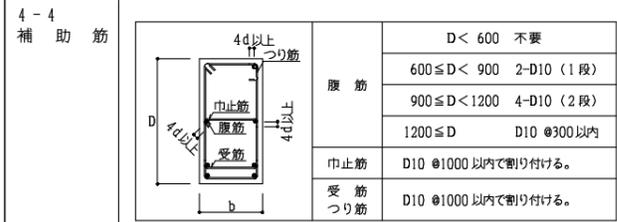
外柱

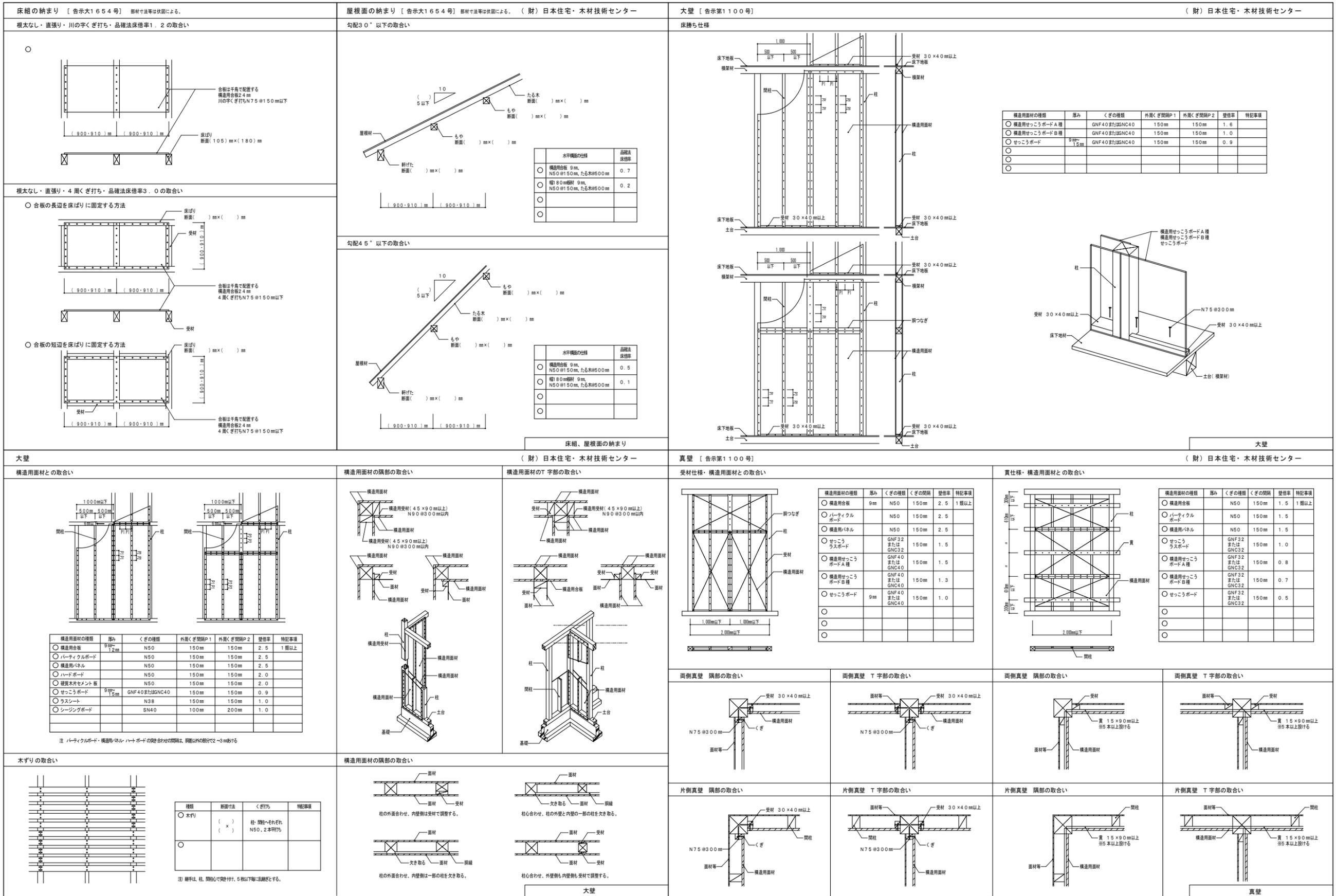
中柱

4-3 あばら筋副あばら筋

TITLE	令和元年度 のびのび児童クラブ1 組施設新築 工事設計図	DATE	2019. 03.	COA 有限会社	コア建築事務所	NO.	S-02
NAME	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	SCALE	NO SCALE	CHECK	PLAN	DRW	

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2) 2018年度版





筋かい端部及び柱端部と接合金物との納まり					(財) 日本住宅・木材技術センター					柱端部と接合金物との納まり					(財) 日本住宅・木材技術センター				
筋かい端部の取合い		柱端部の取合い			(に) 短ざく金物S (スクリュー×ぎなし)		(ロ) 羽子板ボルトSB・F (E) 羽子板パイプSP・E		(ほ) 短ざく金物S (スクリュー×ぎなし)		(へ) 引き寄せ金物S-HD10								
(口) 15×90mm以上の筋かい (壁倍率1.0、たすき掛けのとき2.0)	(イ) 短ぼぞ差し (品確法接合部倍率: 0.0)	(ロ) 短ぼぞ差し (品確法接合部倍率: 0.0)	(ハ) 短ぼぞ差し (品確法接合部倍率: 0.7)	(ニ) 短ぼぞ差し (品確法接合部倍率: 0.7)	(イ) 短ざく金物S (スクリュー×ぎなし)	(ロ) 羽子板ボルトSB・F (E) 羽子板パイプSP・E	(ハ) 短ざく金物S (スクリュー×ぎなし)	(ヘ) 引き寄せ金物S-HD10	(イ) 短ざく金物S (スクリュー×ぎなし)	(ロ) 短ざく金物S (スクリュー×ぎなし)	(ハ) 短ざく金物S (スクリュー×ぎなし)	(ニ) 短ざく金物S (スクリュー×ぎなし)							
(ハ) 30×90mm以上の筋かい (壁倍率1.5、たすき掛けのとき3.0)																			
(ニ) 45×90mm以上の筋かい (壁倍率2.0、たすき掛けのとき4.0)																			
(ホ) 90×90mm以上の筋かい (壁倍率3.0、たすき掛けのとき5.0)																			
筋かい端部及び柱端部と接合金物との納まり					筋かい端部及び柱端部と接合金物との納まり					筋かい端部及び柱端部と接合金物との納まり									
柱端部と接合金物との納まり					(財) 日本住宅・木材技術センター					柱端部と接合金物との納まり					(財) 日本住宅・木材技術センター				
(は) かど金物CP・T (品確法接合部倍率: 1.0)	(は) 山形プレートVP (品確法接合部倍率: 1.0)	(は) 山形プレートVP2 (品確法接合部倍率: 1.0)	(に) 羽子板ボルトSB・F2 (E2) 羽子板パイプSP・E2 (品確法接合部倍率: 1.4)	(に) 羽子板ボルトSB・F2 (E2) 羽子板パイプSP・E2 (品確法接合部倍率: 1.4)	(ト) 引き寄せ金物S-HD15 (品確法接合部倍率: 2.8)	(チ) 引き寄せ金物S-HD20 (品確法接合部倍率: 3.7)	(リ) 引き寄せ金物S-HD25 (品確法接合部倍率: 4.7)												
柱端部と接合金物との納まり					柱端部と接合金物との納まり					柱端部と接合金物との納まり									

禁無断転載

通し柱と横架材及びその他の部位と接合金物との取合い (財)日本住宅・木材技術センター				
通し柱と横架材の取合い(品種法)	引き寄せ金物と各部の取合い			筋かいのすき掛け部分の取合い
(T2) なたぎ大入れ短ほぞ差し +短ざく金物S	筋かいプレートと引き寄せ金物の納まり	真壁の受材タイプと引き寄せ金物の納まり	格子壁(通常タイプ)と引き寄せ金物の納まり	筋かい断面30×90mm、4.5×90mmの納まり
(T3) 引き寄せ金物S-HD15	貫と引き寄せ金物の納まり	土壁と引き寄せ金物の納まり	格子壁(後づけタイプ)と引き寄せ金物の納まり	筋かい断面90×90mmの納まり

法第37条の規定による使用材料表 (H12告示 第1446号)

下表の使用部位において O印 を付した材料を使用する。

使用部位		JIS規格適合品の使用が義務付けられている品目	
基礎	柱	建築材料名	JIS
		構造用鋼材及び鉄鋼	G3101 (一般構造用圧延鋼材) G3466 (一般構造用角形鋼管) 他
		高力ボルト及びボルト	B1051 (ボルト、ねじ、植込ボルト) 他
		構造用ケーブル	G3525 (ワイヤーロープ) G3549 (構造用ワイヤーロープ) 他
		鉄筋	G3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼) G3112 (鉄筋コンクリート用再生棒鋼) 他
		溶接材料	Z3214 (対候性鋼用被覆アーク溶接棒) 他
		ターンバックル	A5540 (建築用ターンバックル) A5542 (建築用ターンバックルボルト) 他
		コンクリート	A5308 (レディーミクストコンクリート)
		コンクリートブロック	A5406 (建築用コンクリートブロック)
		免震材料	
		木質接着成形軸材料	構造用単板積層材の日本農林規格
		木質複合軸材料	
		木質断熱複合パネル	
		木質接着複合パネル	
		タッピンねじ その他	B1055 (タッピンねじ) 他
		打込み紙	
		アルミニウム合金材	H4100 (アルミニウム及びアルミニウム合金の押出形材) H5202 (アルミニウム合金鋳物) 他
		トラス用機械式継手	
		膜材料及びテント倉庫	
		用膜材料	
		セラミックメーソロジーユニット	A5210 (建築用セラミックメーソロジーユニット)
		石綿飛散防止剤	

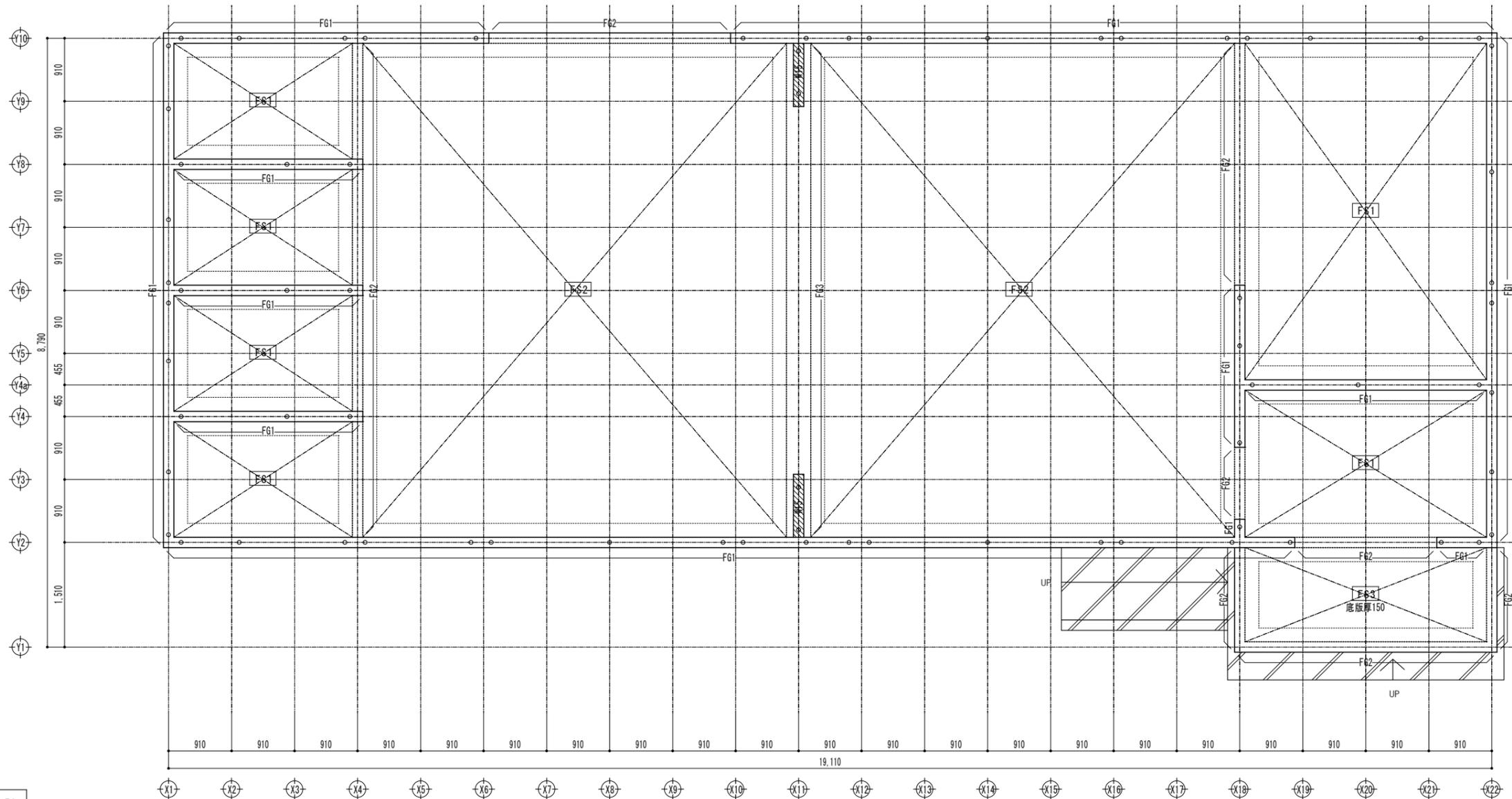
継手及び仕口の納まり (財)日本住宅・木材技術センター					
横架材の継手 (腰掛けあり継ぎ) (腰掛けかま継ぎ)		土台の隅の仕口 (大入れ小根ほぞ差し 割くさび締め) (片あり掛け)		土台の仕口 (大入れあり掛け)	
火打土台の仕口 (なたぎ大入れN90° くぎ2本打ち)		鋼差の継手 (追掛け大せん継ぎ)		はりの仕口 (大入れあり掛け)	
根太の継手 (突付けくぎ打ち)		大引きと床づかの仕口 (突付けひら金物又はかすがい打ち)		根がらみと床づかの取合い	
横架材の継手 (木製火打ばり)		鋼製火打ばり		小屋ばりの継手 (台持継ぎ)	
根太の継手 (大入れあり掛け)		たる木と横架材の仕口 (たる木当たり欠き乗せ掛け)		けた行筋かい・揺れ止め	
小屋ばりと軒けたとの仕口及び取合い (大入れあり掛け)		(かぶとあり)		(透りあご)	

禁無断転載

無等級材の仕様

含水率	含水率は、15%以下であること。
節	径比が40%以下であり、かつ、集中径比が60%以下であること。
入り皮又はやにつぼ	軽微であること。
丸身	20%以下であり、かつ、1角においては10%以下であること。
ねじれ	0.2%以下であること。ただし、「土台用」と表示してあるもの あつては、0.5%以下である。
木口割れ又は目まわり	10%以下であること。
繊維走向の傾斜 (幅が90mm未満を除く)	80mm以下であること。
平均年輪幅	6mm以下であること。
あて	軽微であること。
腐れ又は虫あな	軽微であること。
端落ち	端落ち(材の1端の欠除した部分)の厚さ方向の長さの最大値と 最小値の和の1/2の材の1辺長さに対する割合が10%以下であり、 かつ、材の長さ方向の長さが0.2m以下であること。
その他の欠点	軽微であること。

TITLE	令和元年度 のびのび児童クラブ1組施設新築 工事設計図	DATE	2019. 03.	COA 有限会社	コア建築事務所	NO.	S-06
NAME	木造架構詳細図(3) 使用材料表	SCALE	NO SCALE	CHECK	PLAN	DRW	



基礎伏図 S=1:50

※土台継手用アンカー及びHD用アンカー位置については施工図(プレカット図)等において確認すること。

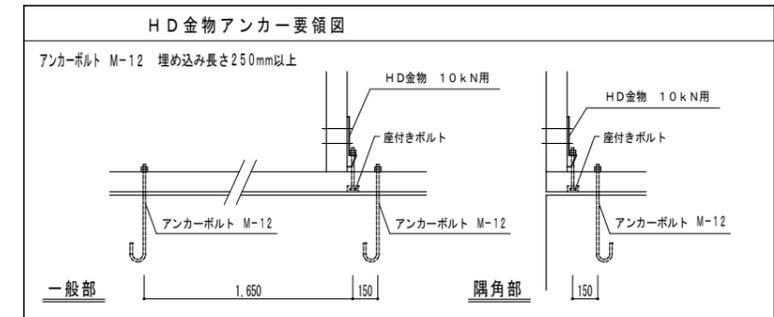
※ 印は、土間を示す。

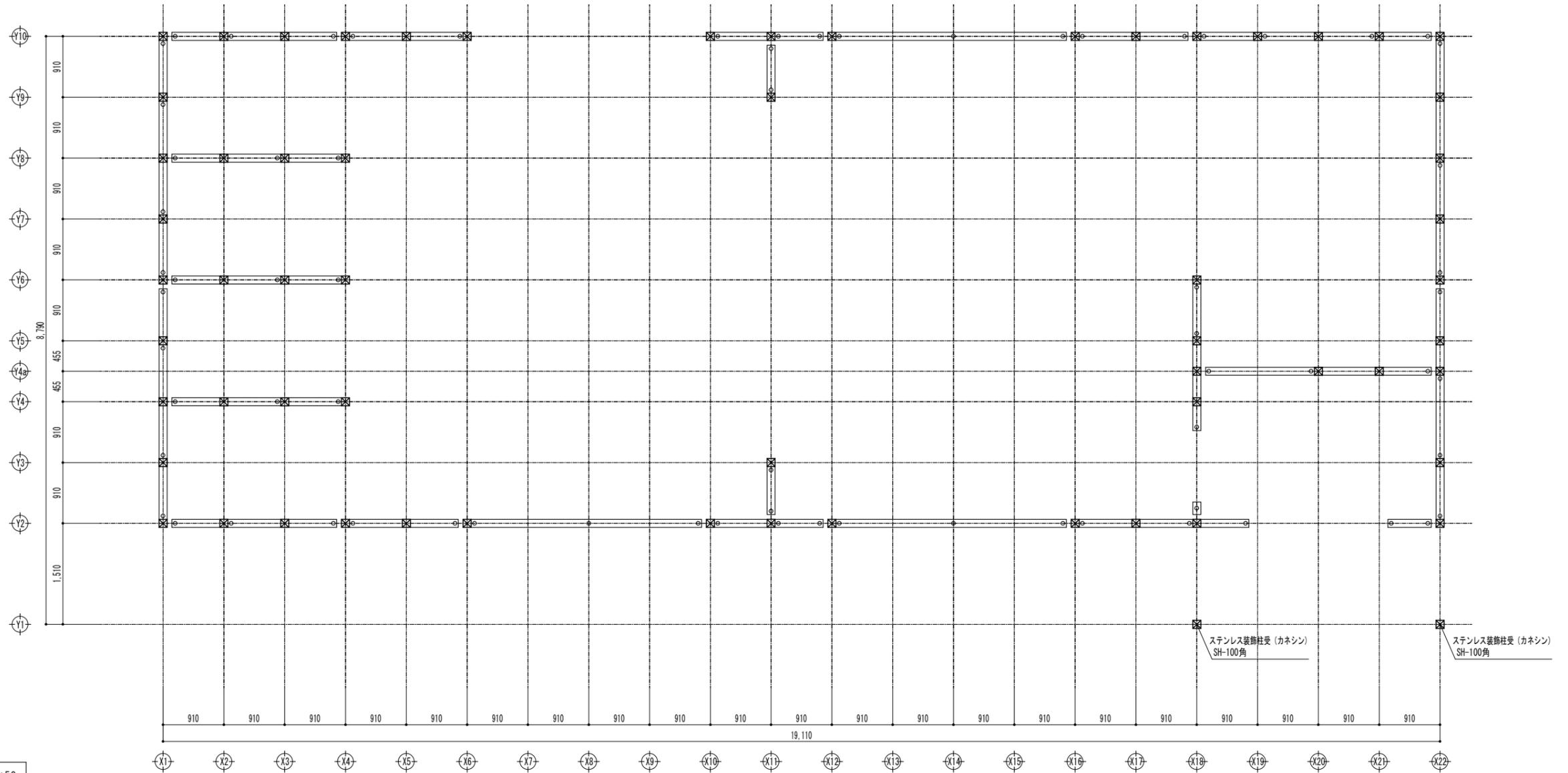
**特記事項**  
 使用鉄筋 SD-295A JIS G 3112  
 コンクリート強度 普通コンクリート 設計基準強度  $FC=21N/mm^2$  JIS A 5308  
 地耐力 設計許容地耐力は、 $30kN/m^2$  (長期) とする。  
 鉄筋継手 全て重ね継手とする。  
 其他 特記なき事項は建築基準法・同施行令に準ずる。

アンカーボルト ○: 土台用 M12 下記による 埋め込み長さ 250 mm 以上  
 (1) 土台端部、土台継手、仕口箇所の上木端部  
 (2) 耐力壁の部分で、その両端の柱の下部  
 但し (1) 以外でホールダウン専用アンカーボルトが取付く場合は省略可  
 (3) 上記 (1) (2) 以外の部分は、1,800以内とする。  
 床下換気口: 内部、外周部 基礎バックキン工法  
 其他: 特記なき事項は、RC施工基準による。

TITLE	令和元年度 のびのび児童クラブ1 組施設新築 工事設計図	DATE	2019. 03.	有限会社 コア建築事務所	NO. S-07	
NAME	基礎伏図	SCALE	1/50			CHECK

<p>FG1</p>		<p>FG2</p>	
<p>FG3</p>	<p>W15</p>	<p>梁の定着      スタラップの端部処理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鉄筋のあきφは原則として下記による。</li> <li>呼び名の数値dの1.5倍以上      かつ</li> <li>粗骨材の最大寸法の1.25倍以上      2.5以上</li> <li>鉄筋径が異なる場合は大きい方による。</li> <li>二筋筋のあきは1.5dとする。</li> </ul> <p>※ 梁主筋の定着は40d以上とする。</p> <p>※ スタラップは必ず上下共フックをつける事。</p>	
<p>FS1</p>	<p>FS2</p>	<p>FS3</p>	<p>土間</p>



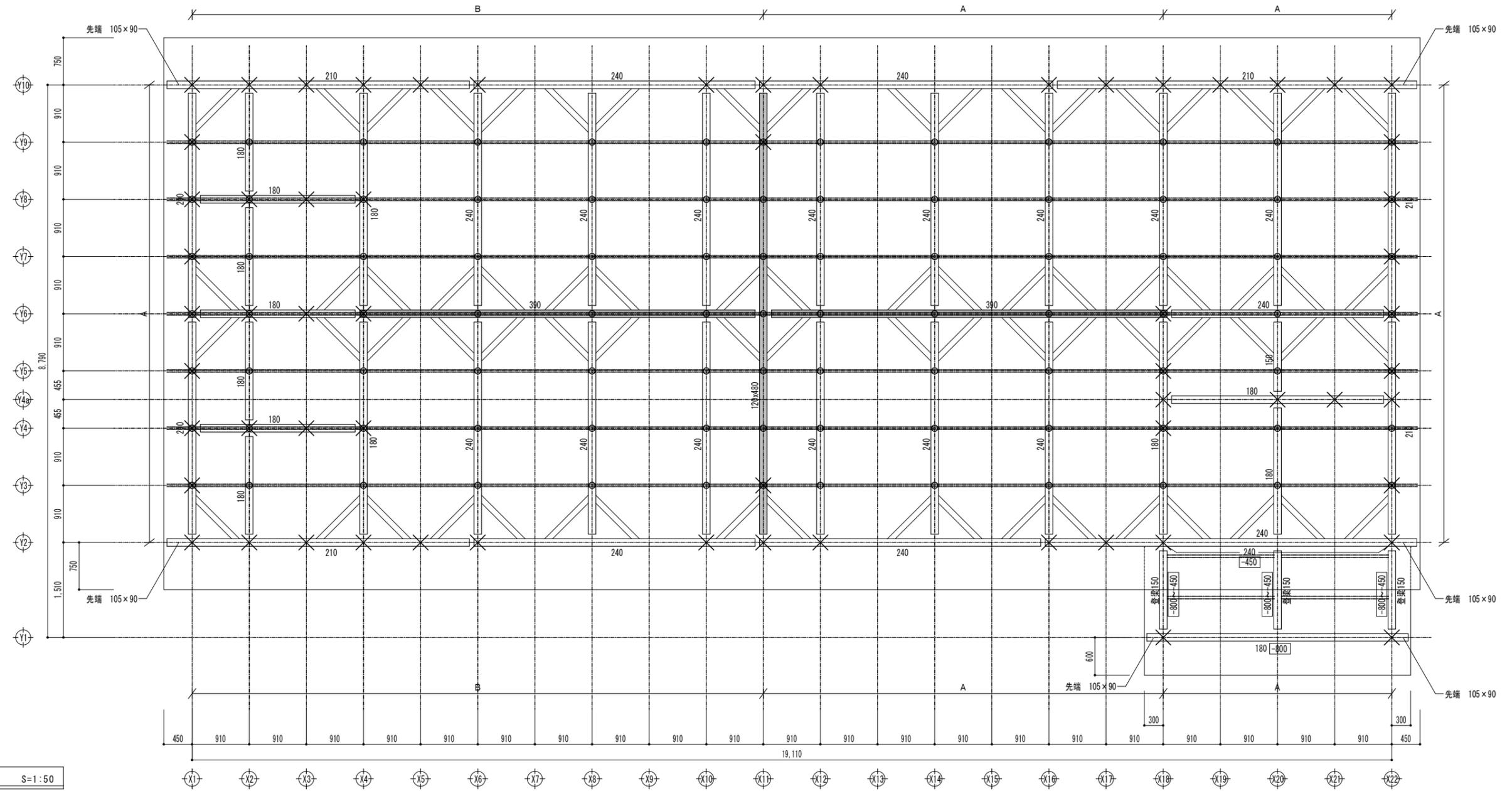


1階伏図 S=1:50

記号	寸法	材種・規格 (JAS) 製材は全てKD材とする。
土台	105×105	檜 (1等材)
管柱	105×105	檜 (1等材)
間柱	45×105	米松 (1等材)
防腐防蟻処理	地盤面から1m以上の部分に施すこと。	

特記なき事項は木造3階建構造標準図及び建築基準法・同施行令・国交省告示に依る

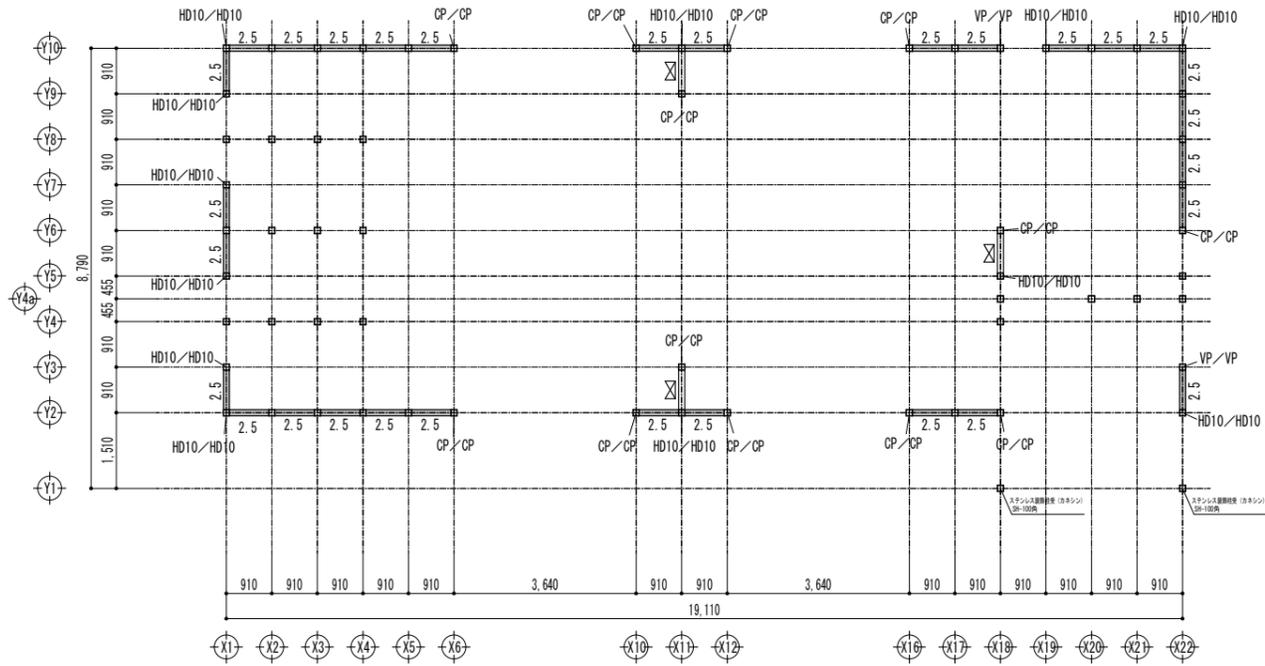
TITLE	令和元年度 のびのび児童クラブ1 組施設新築 工事設計図	DATE	2019. 03.	<b>COA</b> 有限会社 コア建築事務所 NO. S-09
NAME	1階伏図	SCALE	1/50	
		CHECK	PLAN	DRW



小屋伏図 S=1:50

※ [-800]の数値は、軒高さからの下がりを示す。

記号	寸法	材種・規格 (JAS) 製材は全てKD材とする。	記号	寸法	材種・規格 (JAS) 製材は全てKD材とする。	記号	寸法	材種・規格 (JAS) 製材は全てKD材とする。
下階柱位置			小屋束	105×105 小屋筋カワイ・雲筋カワイで固定	米松 (1等材)	筋交い	45×90	米松 (1等材)
梁	特記無き梁巾は105 梁成は特記による 一般梁天よりの高低差を示す 内数値 特記無き梁端部継手及び仕口は A による。 A: 腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛け+羽子板ボルト、又は、短冊金物 B: 腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛け+羽子板ボルト×2、又は、短冊金物×2	米松 KD材 (1等材) 印の材種は、集成材 E150-F435 米松 (対称異等級構成集成材)	雲筋カワイ	15×90	杉 (1等材)	火打ち梁	90×90	米松 (1等材)
			母屋・棟木	特記無きは 105×105 特記による母屋	米松 (1等材) 米松 (1等材)	屋根構面 構造用合板 t=12mm(釘打ち N50@150)千鳥貼り 特記なき事項は木造3階建構造標準図及び建築基準法・同施行令・国省告示に依る 外壁及び水回りに使用する構造用合板は特類とする(告示1100号)		
			垂木	45×60 @455	米松 (1等材)			
			付け底については施工方法を十分に検討すること。		垂木は、くら金物等で梁等に緊結する。			



1階金物図 S=1:100

図中表示金物位置は右記による。柱頭金物 / 柱脚金物

金物

( Zマーク金物 )

HD10 : 10kN用金物 コーナービス止めタイプ

VP : 山形プレートVP金物を示す。

CP : CPT及びCPL金物を示す。

特記無き限り、引き寄せ金物は柱脚 柱頭 共通とする (通し柱は除く)

筋カイ耐力壁 (米松KD)

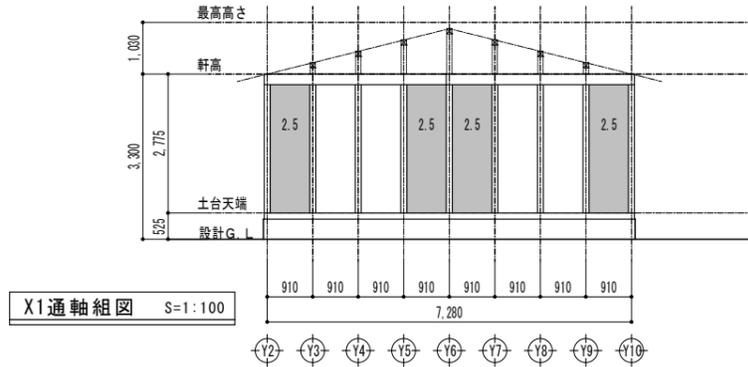
- : 45×90 タスキ 倍率 4.0倍
- : 45×90 片掛け 右上がり 倍率 2.0倍
- : 45×90 片掛け 左上がり 倍率 2.0倍

面材耐力壁

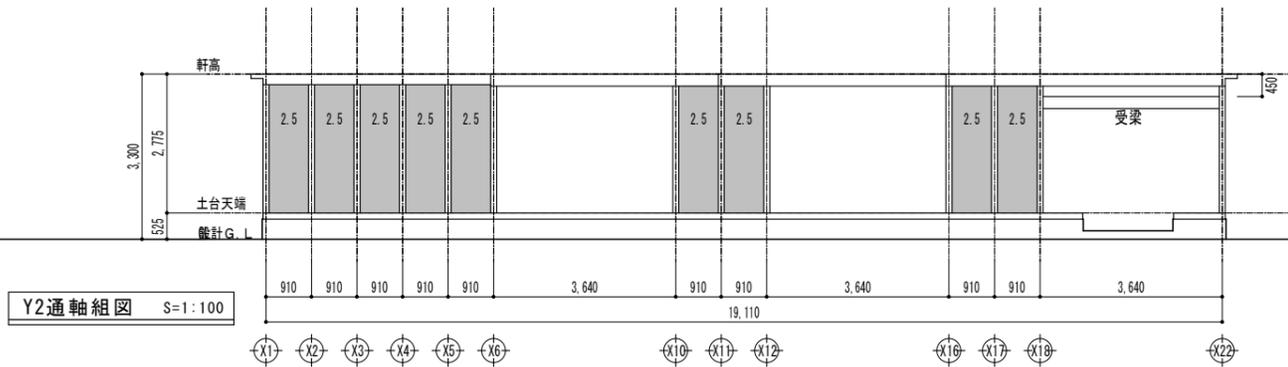
- : 構造用合板 9mm以上 (片面貼り 大壁) 倍率 2.5倍

構造用合板耐力壁の釘打ち仕様は、N50 @150以内とする。  
 構造用合板は1類以上とする。  
 面材耐力壁に換気口を設ける場合は、補強をすること。

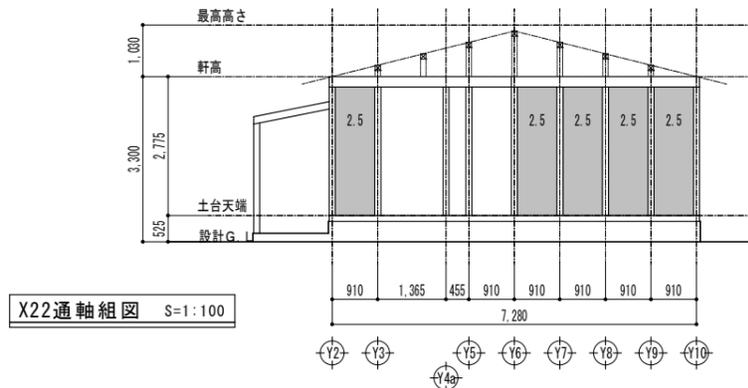
左記金物は、同等認定品でも可能。



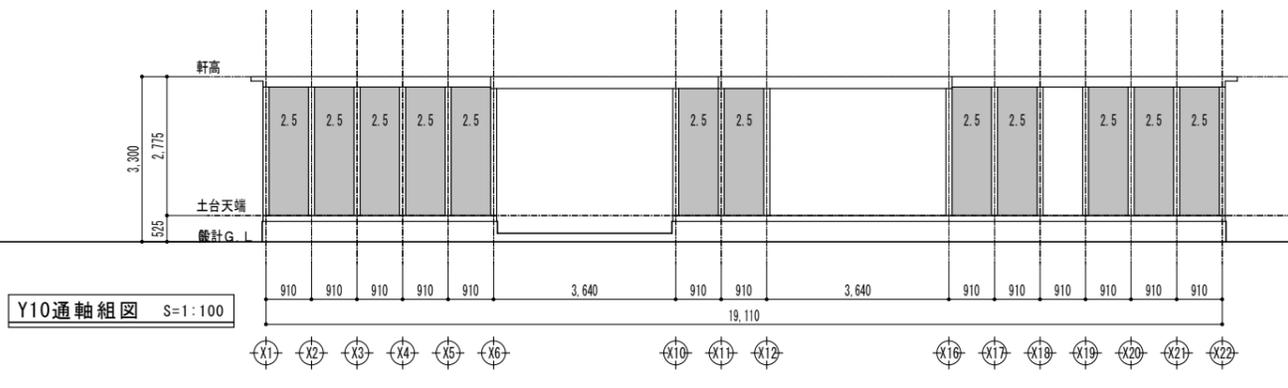
X1通軸組図 S=1:100



Y2通軸組図 S=1:100

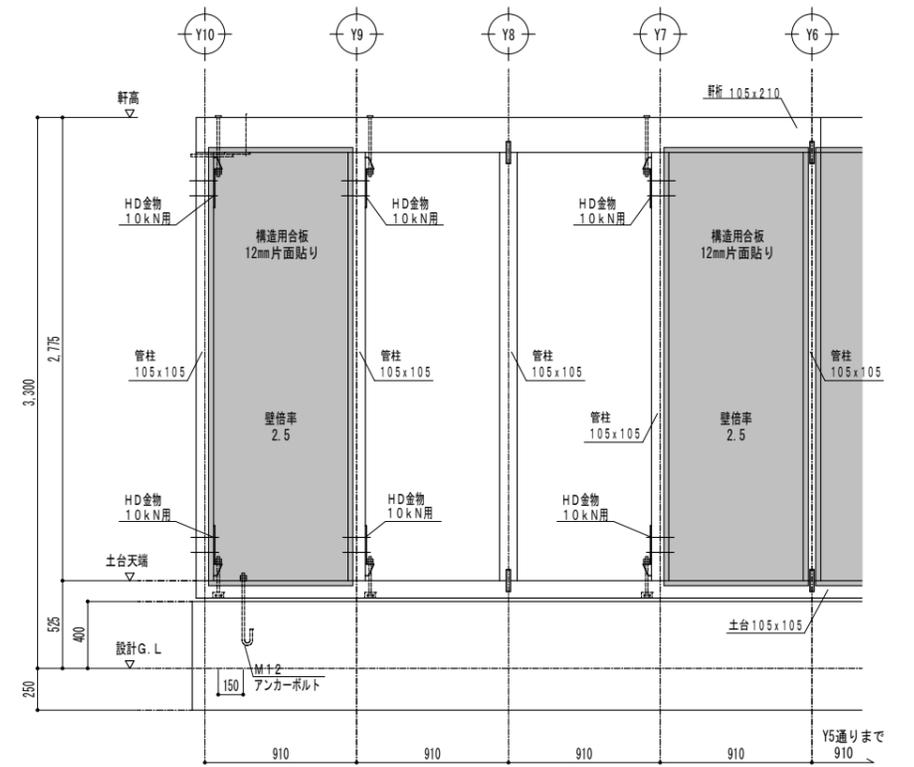
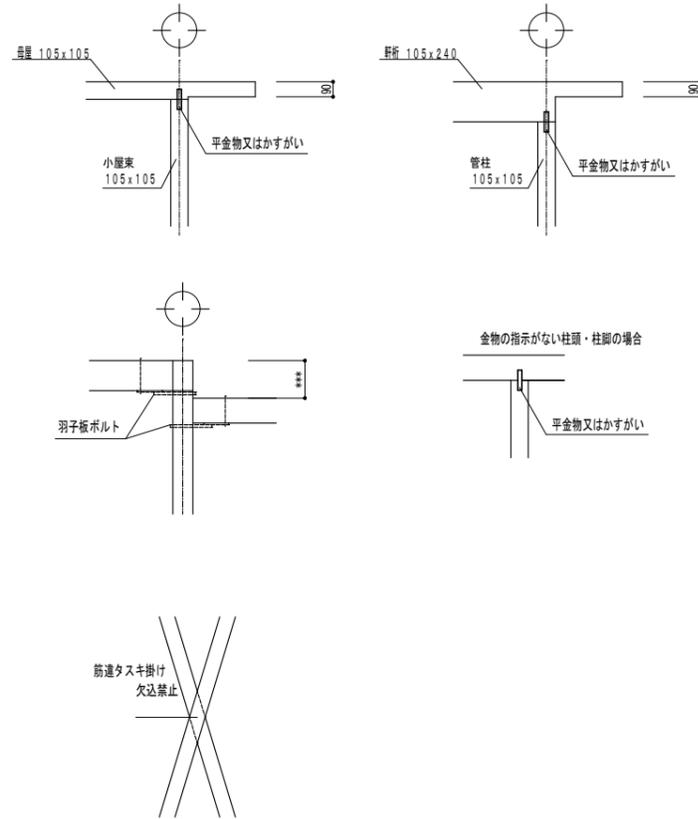
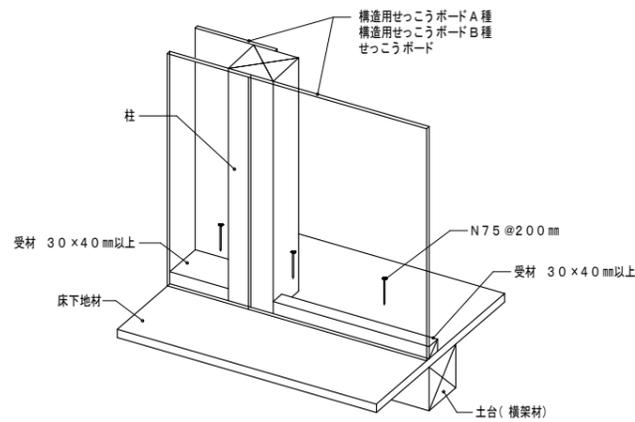
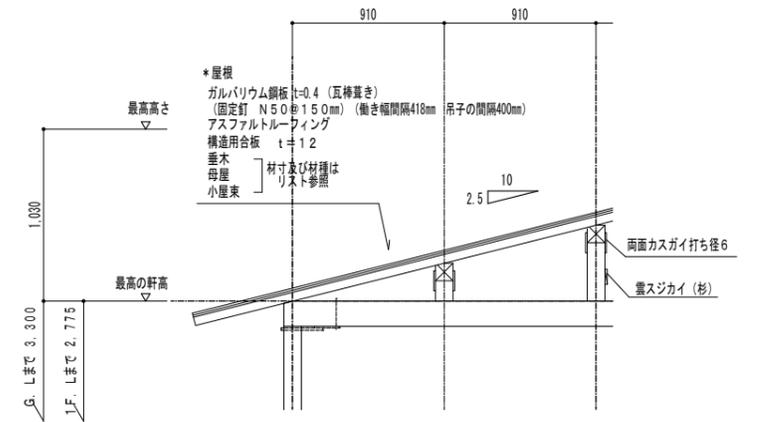
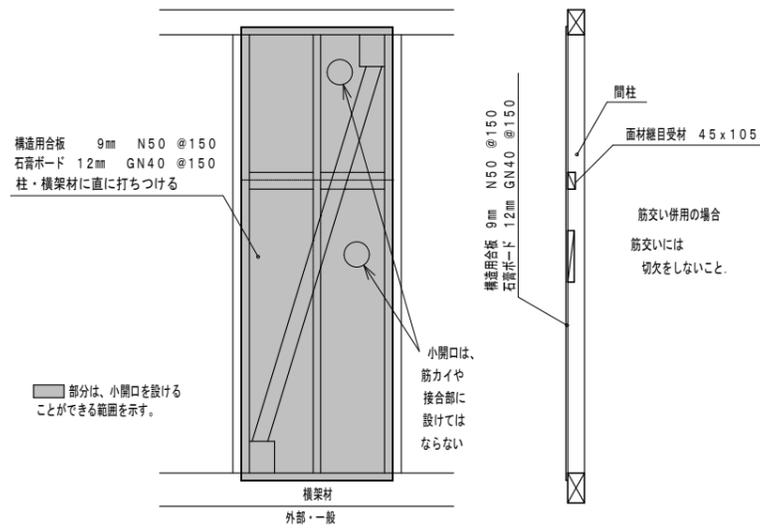
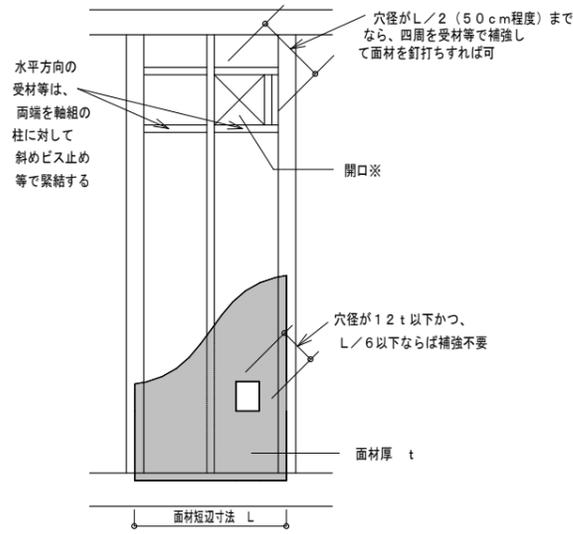


X22通軸組図 S=1:100



Y10通軸組図 S=1:100

柱の有効細長比	
	105角
1階	91.443



X 1 通架構図 S=1:30

\*金物の指定無き部分は平金物又ははすがい等を使用する事。  
\*筋違い金物は柱・梁双方に緊結するタイプ等を使用する事。

TITLE	令和元年度 のびのび児童クラブ1 組施設新築 工事設計図	DATE	2019. 03.	COA 有限会社	コア建築事務所	NO.	S-12
NAME	部分詳細図・架構詳細図	SCALE	1/30	CHECK	PLAN	DRW	